

明星小学校 令和6年度 校内研究のまとめ

はじめに

本校では、コロナ禍で加速した学習者のタブレット活用について、令和4～5年度に研究レベルを進めることとした。研究主題は、「主体的な探究力の育成」とし、副主題に「ロイロノートの活用を通して」を掲げ、全教科におけるロイロノートの機能、とりわけシンキングツールを活用した授業づくりを行った。

本年度はそれらの成果や課題を踏まえて、学校教育目標で重点的に育成を目指す「資質能力としての探究力」を伸ばすための授業づくりに焦点を当て、第2ステージとして研究を行う。

【令和6年度研究主題】

主体的な探究力の育成 (第2ステージ 1年次)

～児童が自ら問いを立てる単元や教材との出会わせ方の工夫を通して～

1 主題設定の理由

(1) 本校の教育目標等から

本校の教育目標の実現に向けて、本年度は「探究する子」に重点を置いた取組を進める。

【学校教育目標】

広く国際社会に生きる人間として、一人ひとりの個性を生かしながら、豊かな人間性と創造力を身に付け、たくましい行動力をそなえた心身共に健全な児童を育成する。

(1) 探究する子 (2) 心みがく子 (3) 行動する子

【R6 明星小学校プラン(重点的取組)】

いつでも どこでも だれとでも 探究する子を育てる

【明星小 授業スタンダード】

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1 主体的に探究する授業 | 2 協働的な学びの充実 |
| 3 板書とノート・タブレットの連動 | 4 授業と家庭学習の連携 |

(2) これまでの校内研究の取り組みから (成果と課題)

令和5年度は、「主体的な探究力の育成～ロイロノートの活用を通して～」の主題のもと次のような成果と課題を得た。

成果としては、「タブレットの活用の日常化」がある。例えば、「インターネットの活用 (調べ学習)」や「ロイロノートの活用 (考えをまとめる・発表する・共同編集する等)」、「家庭におけるタブレットの活用 (継続した学習、操作技能の向上)」が進んだ。

課題としては、「タブレットの主体的な活用」がある。特に、「自己の課題や目的に応じて自分で思考ツール等を選択し、解決しようとする主体的で探究的な態度」等についてさらに伸ばす必要があることが分かった。

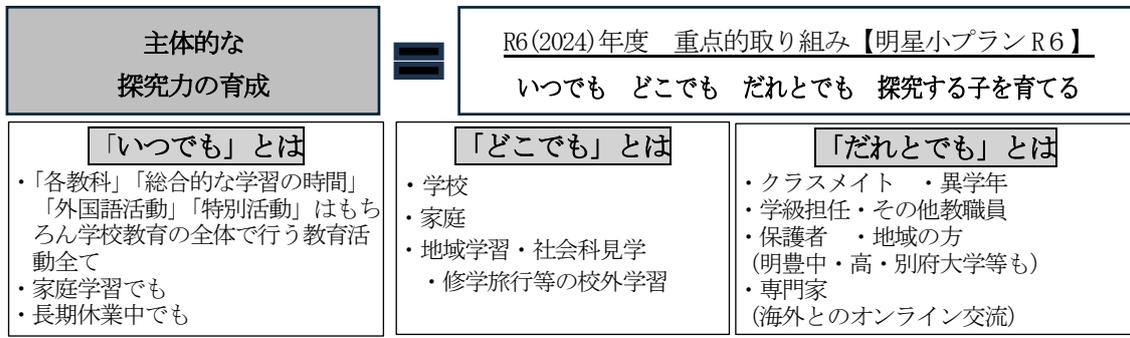
(3) 国の動向から

平成29年の学習指導要領改訂で「主体的・対話的で深い学び」＝アクティブラーニングの実現が求められ、3つの柱「知識・技能」「思考・判断・表現力」「主体的に学びに向かう態度」が示された。

令和3年の「令和の日本型教育」の答申では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が求められる方向が示された。令和6年度全国学力調査には、例えば、国語科の内容に「オンライン交流」が、算数科には、「考えのわけを言葉と数で説明する」設問があるなど、日常の多様なタブレット活用に加えて、教科の特質を踏まえた言語活動の必要性が窺える。

2 研究主題の構造について

子供の探究の姿については、具体的に次のように整理し、そのような姿を実現するための指導の在り方として探究的な学習過程を下のように構想した。



「探究する」ために必要な探究力とは (2023 研究より)

ある物事について、自ら課題 (課題に対する自らの問い) を立て、
課題に対する情報を集め、整理分析し、まとめたり、表現したりする力。

その発達のためには・・・

課題設定→情報収集→整理分析→話し合い→まとめ・表現→評価(勘別)を一連の流れとす
る探究的な学習過程に基づいた指導を教師が行う

探究的な学習過程とは・・・(個々の教科の学習過程は次年度検討・明星小授業スタンダードの改定)

段階	学習活動の具体例
①つかむ	学習のはじめに、既習事項 (学習内容、成果・課題) を振り返る。
	子供と共に、めあて (課題・問い) を立てる。 今年度重点テーマ
②深める	子供と共に、探究の方法を考え、学習計画を立て、学習への見通しをもたせる。 タブレット (ロイロノート) を積極的に活用する。
	図書館や図書の本を積極的に活用する。
③広げる	学び合う活動 (共同作業・グループワーク・話し合いなど) を行う。
	自ら学習したことを整理・分析して、「まとめ」を書く。 学習したことを、友達と共有したり、伝え合ったりする。
④まとめ ふりかえる	自らの学習の成果と課題を振り返り、「ふりかえり」を書く。

☆ この学習過程を各教科や単元の特徴を踏まえて1単位時間（毎時間）の授業でも単元全体でも繰り返し意識しながら、児童の探究力を育成するようにする。

☆ 今年度は、特に「①つかむ」に重点を置いた授業を提案し、児童が自ら問いを立てるために有効な手立てについて、全員で指導法を共有・蓄積していく。なお、①は単元の最初だけでなく小單元ごとの最初としても捉えていく。

3 本研究の見通し（3年計画の1年次）

令和8年に私小連教員研修会の会場校としての提案をすることとなっており、それまでの3年間で第2ステージとして次のように見通す。

【R6（2024）年度（1年目）】

- ① 私小連の担当教科で、児童が自ら問いを立てるような手だてを講じた授業を一人1授業提案（公開）する。⇒共有・蓄積
- ② 教師自ら授業改善を行い、各教科で探究的な学習過程に基づいた指導ができるようになる。
- ③ 教育課程特例校申請（8月）、年度末に教育課程編成（「探究科」創設準備、他教科の修正）



【R7（2025）年度（2年目）】

- ① 「探究科」創設
- ② 私小連の担当教科の特質に応じて、校内研究で、主体的な探究力を育成するような学習過程（明星小授業スタンダードの改訂版）を提案する。（未定）



【R8（2026）年度（3年目）】※実質的な目標

- ① 私小連の会場校として、（私小連の研究テーマに沿いつつ）「探究科」を意識して、担当教科の授業提案を行う。
- ② 探究科のカリキュラム等の見直し

4 研究の方法

研究を進めるに当たり、次のように理論研究、授業研究、時間の確保の点から計画する。

（1）理論研究

「探究力」「探究学習」「明星小として目指す児童像」等について、子供の姿や実際の授業を見て議論する。また、外部講師を招聘し、国の動向等についての講義を受ける。

（2）授業研究

全員が年1回以上の研究授業を行い、探究的な学習指導の実践力を高め、授業改善・指導力向上を図る。また、全体研（各分科会代表者4本）または、分科会授業（分科会内で相互研修。分科会以外の教員は自由参観）のどちらかを行う。研究授業の指導案には、単元構成と本時案をつける。

（3）研究時間の確保

基本毎週水曜日の放課後は職員研修（研究）の時間とする。また、研修は、全体研修（講師講話等）、指導案検討、または個人研究とする。よって、水曜日に会議は入れないようにする。

5 授業研究の実施に当たって

(1) 研究仮説

教師が、児童が自ら問いを立てる単元や教材との出合わせ方の工夫をし、1 単位時間（毎時間）の授業でも、単元全体でも、探究的な学習過程に沿って学習指導を行えば、児童の探究力が育成され、主体的にいつでも、どこでも、だれとでも探究できる児童が育つであろう。

(2) 教科の特徴を踏まえて仮説の検証を意識する。

仮説は、課題設定場面における教師の手立てに着目し、その後の授業全体での児童の学習状況から検証する。（発言・話し合い・記述内容・表情や態度・作成物等）授業者は、指導案上に「課題設定場面における手立て」（①つかむ段階）について、詳しく明記する。

(3) 次のように教科グループを4つに分けて、分科会を構成する。

A（国語・社会）、B（算数・理科）、C（生活・総合・英語）、D（音楽・図工・体育）の4つの教科グループ（分科会）で構成し、授業は、全員提案授業を行う。※資料1～4参照

6 まとめ

(1) 今年度の授業研究から学んだこと

子どもに問いを持たせるにはどうすればよいかをまず第一に考えた。そのためには、どんな教材を準備し、どのような出

合わせをしたらよいかについて教師の指導を議論してきた。その結果、各教科によって、いろんな出合わせ方があることがわかった。

各教科の実践から、単元や教材の出合わせ方（課題の提示）を大切にすることで、児童自らの問いが生まれる。その問いを大切にし、探究的な学習過程に沿って学習指導を行うことの必要性も強く学んだ。探究学習においては、意見の共有や話し合いなどの協働的な学びなしには学習が深まらないことも実践をとおして明らかになってきた。

教科	課題の状況	課題の質
図工	友達の作品のよさや楽しい考え	目指すイメージに向けて表現と鑑賞、表現と技術習得の繰り返しよりよいものを求める課題
社会	予想とは異なる資料や事象とのすれ	身近な事象で見出した仕組みや原理をもとに複雑、隠れた事象を解き明かす課題
理科	予想とは異なる事象とのすれ	
算数	既習事項を用いて解けそうな応用発展的な問題	既習事項を組み合わせで解く、ハードルの高い課題
国語	既習の知識や技能を用いて、他の題材に応用できるような言語活動	学んだ言語材料を使ったり構成を考えたりして説明資料を作ったり、説明や話し合いを行ったりする課題
英語	班のプレゼン交流から相手に伝えるための工夫	グループ交流からの新たな視点で物事を捉え直す課題

(2) 来年度に向けて

来年度は、いよいよ「探究科」を創設する。今年度培ってきた各教科での探究的な学習と来年度試行する探究科を「のりしろ」のようにつなぐべく、応用・発展的な教科学習の単元構成について研究を続けていきたい。

また、協働的な学習につながる学習プロセスや共有・話し合いのあり方、グループ学習の取り入れ方などについても研究を深めていきたい。

資料1 図画工作科における探究の在り方を求めて（まとめ）

実践者	2年1組 担任 須股 仁美	
教科	図工	
単元名	こんにちは、むぎゅたん（全3時間） 自分の作品を見直し工夫しよう（3時間目）	
児童が自ら問いを立てる 単元や教材との 出合わせ方の工夫	前時につくったみんなの作品をスライドで紹介し、「むぎゅたん」への関心を高める。それを見た時の「すごい」「いいね」などの児童のつぶやきを取り上げ、「『いいね』を伝え合い、自分の作品を見直し工夫しよう」と声をかける。	
授業の概要		
階	学習活動	児童の様子
つかむ	前時につくったみんなの作品をスライドで紹介し、「むぎゅたん」への関心をもつ。	友達の作品をモニターで見せたとたん、「えっ」「やばっ」「かわいい～」「竜巻鬼や」などの嬉しい驚きや素直な感想が口々につぶやきとなって出ていた。
深める	作品のよさを考え、伝え合う。 ・自分の作品の紹介をしたり、友達の作品を見たり聞いたりして感じたことを伝え合ったりする。	全体では、2名の作品の紹介をした。「つまむ、ひねる、穴をあける」など、作品のよさに気付いていた。友達の作品を見ながら、「自分の作品はどうやったら進化できるか」課題意識が芽生えていた。
広げる	・班ごとに、「むぎゅたん」の紹介や工夫点を紹介し話し合う。	友達の作品の「いいね」に気付き、伝えることができていた。
まとめ振り返る	・友達からもらった意見や友達の作品を見て感じたよさから、工夫したいところや真似したいところ、自分の作品に生かしたいところを見付け、自分の「むぎゅたん」を見直し工夫する。	どの子も、自分の「むぎゅたん」を進化させたいという意識が高まっていたので、友達の作品を鑑賞する活動を通して、よさを取り入れながら、自分の作品を見直し工夫する子が多かった。
成果と課題		
<p>粘土遊びは、子ども達が大好きな学習である。今回の授業では、個別活動から協働的に学ぶ活動を仕組んだ。形が「思い浮かばない子、イメージが広がらない子」が、友達の作品に出会ったり、自分の作品のよさを友達から認められたりすることによって、『形やイメージ』を広げていくことができた。そう考えた時に、本時の3時間目を協働的な学びの鑑賞を取り入れ、自分の作品を進化（見直す）させる時間にしたことは、大きな成果があったと考える。</p> <p>教材との出会わせ方や授業の導入の工夫で、子ども達の意欲を掻き立てられるような「やりたいと思わせる」仕組みができた。また、友達に認められることは、「できる喜び」につながり、「つくる喜び」に発展していく。「自分の作品のよさを認められる、つくる楽しさを知る」ことは、「学ぶ楽しさを知る」授業につながる。図工のような芸術教科では、鑑賞することを通じた活動が、自分の作品を見直すことにもつながることがよくわかった。</p> <p>反省点としては、グループ学習で鑑賞する時に、もう少しねらいを絞ったら、自分にはない視点に目が向き、作品が豊かになったかもしれない。たとえば、「班で、自分とは違うやり方（ひねる、つまむ、丸める、広げる、くっつける、・・・）を見つけよう」などのグループで話し合う際に、今の自分にはない、作品の進化（見直し）につながるような課題があればよかったと思う。</p>		

資料2 理科における探究の在り方を求めて（まとめ）

実践者	3年 1組 担任 上石 恵爾	
教科	理科	
単元名	電気の通り道（7時間） 金色と銀色の折り紙は、電気を通すのか？（5時間目）	
児童が自ら問いを立てる 単元や教材との 出合わせ方の工夫	前時に金属が電気を通すことを学習した上で、本時で金色と銀色の折り紙が電気を通すか予想し、実験する。金色の折り紙が電気を通さないことで、なぜかという疑問を生じさせる。	
授業の概要		
階	学習活動	児童の様子
つかむ	○前時の振り返りと本時の学習内容を知る。 ○「金色と銀色の折り紙は電気を通すのだろうか」という課題を提示し、予想・実験する。 ○「なぜ、金色の折り紙は電気を通さないのだろうか」という問いに出合わせる。	○前時を踏まえた上で、「金色と銀色の折り紙が電気を通すのか」という課題に対する予想を、根拠をもちながら立てることができた。 ○金色の折り紙が電気を通さないことに不思議さを感じることもできた。
深める	○「なぜ、金色の折り紙は電気を通さないのだろうか」という問いに対し、班ごとに考察する。	○実験結果をもとに、様々な視点から考察する姿勢が見られた。
広げる	○班で話し合ったことをもとに、考察したことを発表する。	○アルミニウムの含有量や材質の違い、何か塗られているなど、意見を出すことができた。
まとめ振り返る	○本時の学習を振り返り、次時の予告をする。 ＜本時のまとめ＞ ・銀色の折り紙は金属の部分がある ・金色の折り紙も金属の部分があり、通しづらい仕掛けがしてある。	○「けずってみたい」や「色を取ってみたい」という発言があり、次時に調べてみたいことを明確にすることができた。
成果と課題		
<p>本単元の単元目標は、『電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があることや電気を通す物と通さない物があることを理解し、乾電池と豆電球などのつなぎ方と乾電池につないだ物の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、電気の回路についての問題を見だし、表現できるようにする。（以下略）』である。</p> <p>本授業は、前時までの学習内容を踏まえて、「金色と銀色の折り紙が電気を通すのか」という発展的内容の課題から、予想と実験結果にズレがあることを実感させ、児童自ら新たな問いを立てることをねらった。</p> <p>実験から児童自ら問いを立てることができたこと、予想が分かれたことで、なぜという疑問が生じ、様々な視点から考察することができたことは成果があった。</p> <p>しかし、答えのもととなる考えの根拠を語らせる部分で、児童にじっくり語らせることができなかったこと、友達への質問や自分のわからなさや不確かなところの出し合わせをうまく引き出す発問ができなかったことには課題が残った。</p> <p>小学校3年生の理科では、自然や科学に対する興味や好奇心を育てることが重要である。実験や観察を通じて、児童自ら「なぜ？」と思う力や考える力を養っていける授業づくりをこれからも提案していきたい。</p>		

資料4 英語科における探究の在り方を求めて（まとめ）

実践者	英語科 小柳薫、デニス・スパイク・ノーマン	
教科	英語科	
単元名	「ようこそ別府へ」プロジェクト～海外からのお客様に別府のアピールポイントを伝えよう（全7時間） 自分たちのアピール文をブラッシュアップしよう（5時間目）	
児童が自ら問いを立てる 単元や教材との 出合わせ方の工夫	前時までに作った、5文からなる「別府のアピール文」をワールドカフェ方式で互いにプレゼンテーションし合う。その感想を送り合い、また、他グループのプレゼンテーションの感想を自グループに持ち帰り、自分たちの文章をより良くするためにはどうすれば良いかを考えさせる。	
授業の概要		
階	学習活動	児童の様子
つかむ	前時までに作った資料・原稿を使って、他グループのメンバーに自分たちが考えた「別府のアピール文」を発表する。	写真資料を使うことで、理解はできていたが、中には、「英語」そのものの理解は難解だったという意見も聞かれた。
深める	プレゼンテーションを聞いた児童は発表者にアンケート方式で感想を送り、また、自グループにその感想を持ち帰る。	アンケートを使用して行ったが、感想は「英文」の作り方ではなく、プレゼンテーションの方法（声の大きさやスピードなど）に傾いていた。
広げる	他グループからの感想と、グループメンバーが持ち帰った他グループの情報を参考に、自分たちの文をブラッシュアップするにはどうすれば良いかを話し合う	「英文の作り方」に意識を向けさせようとしたが、教師が国語での経験をコメントするなど、かなり思考方向を促す必要があった。しかし、一度考えの方向性を理解した後は活発な意見交換が見られた。
まとめ振り返る	相手が外国人旅行者であることを意識すると必要な情報や不要な情報を取捨選択しやすくなることや、難しいことを日常の言葉で簡単な短い文にまとめて言うことが相手に伝わりやすい文にする重要ポイントであることを理解する。	最初は、自分たちが調べた情報を全て入れようとしていたが、「それは外国から来た人たちに必要なこと？」「これはもっと詳しく説明しないとわからないのでは？」という視点を持つことができるようになっていた。また、「難しいことを簡単に言うのが難しいと思った。」という感想も聞かれた。
成果と課題		
<p>今回は、相手意識を持って伝わりやすい英文を書くポイントに自ら気づくことをねらいとした。はじめは、相手が外国人観光客であるという意識が薄く、ともすれば自分たちが調べた情報をどのように英文にするか、だけを考えていたが、話し合いを重ね、指摘を受けることによって「自分が言いたい事」<「相手が知りたい事」で文を作ることが大切だと気付いてくれたように思われる。</p> <p>また、簡単な単語や文を使って書くことの必要性が理解できていなかった児童は、日常使っている単語や短い文で伝えた方が、かえって相手はわかりやすく、自分たちも伝える際に気持ちを込めやすいことが理解できたように感じられた。</p> <p>反省点は多々あるが、第一に「発表すること」「書くこと」のどちらに重点を置いているのかがわかりにくい授業であったことである。しっかり「書くこと」の指導に重点を置き、例えば「良い例」「悪い例」を並べて、どちらが良いと思うか、それはなぜだと思うかをグループで考えさせる等の活動を組み込めば、教師からのヒントがなくても、「英文を書く」際の重要事項を自ら見つけられたのではないかと考える。</p>		